

# 國學院大學學術情報リポジトリ

圓佛教教徒の意識調査：  
アンケート調査の分析を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 李, 和珍 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00001785">https://doi.org/10.57529/00001785</a>

## 圓佛教教徒の意識調査 —アンケート調査の分析を中心に—

李 和珍

## 1. はじめに

韓国の仏教系新宗教である圓佛教は、少太山（朴重彬、1891～1943、現在は「大宗師」と呼ばれる）によって1916年全羅北道益山市で開教された<sup>(1)</sup>。少太山の教えの中核は、「物質は開闢される、精神を開闢しよう」というものである。少太山は、植民地時代に貯蓄組合の設立による資金や干潟の干拓事業などにより得られた経済的な基盤をもとに、信心深い9人の弟子とともに宗教研究を始め、経典、各種の教書編纂などの精神的な基礎を作るとともに、「仏法研究会」という名で本格的な活動を開始した。1943年6月1日に少太山は死去するが、教団ではこれを「涅槃」と表現している。その法統は弟子の鼎山（宋奎、1900～1962、現在は「宗師」と呼ばれる）に継承され<sup>(2)</sup>、45年には教団名が「圓佛教」となった。圓佛教の信仰の対象は「法身佛一圓相」であり、「○」の象徴であらわされる。修行の際は、これを前に置く。基本経典は『圓佛教教典』（正典と大宗経<sup>(3)</sup>）であり、教書は『圓佛教全書』（佛相要経、礼典、鼎山宗師法語、圓佛教教史、圓佛教教憲、聖歌）と大山宗師法門集などがある。

圓佛教は新時代の新しい仏教、新しい宗教であると教団は説く。仏教に源を置くけれども、「法身佛一圓相」を信仰の対象と修行の手本とする独自の教理と信仰・意識体系を備えているとする。独立した教団であって、新しい宗教であるともしている。圓佛教の聖地（全羅北道益山市）の中央総部をはじめ、韓国国内に15教区450余カ所の教堂、国外には4教区13カ国30余カ所の教堂がある。アメリカ、日本、カナダ、ドイツ、南アフリカなどに教役者を派遣し、ニューヨークには圓光韓国学校、ハワイの国際訓練院などを設立して海外教徒の教育と訓練を行っている<sup>(4)</sup>。教化・教育・慈善が圓佛教の三大事業とされているが、教化は全国の教区と「教堂」と呼ばれる支部、国外の複数の教堂を中心に行われている。教育は、圓光思想研究院をはじめ、圓佛教大学院大学校（圓佛教教役者養成）、圓光大学校、圓光保健専門大学、円光中・高校などにおいて行なわれている。慈善事業としては、総合社会福祉館、総合病院、漢方病院、孤児院などの医療事業、出版、文化事業も展開されている。

本稿では、2008年末から2009年初にかけて実施した圓佛教への信者に対するアンケート調査の結果を分析するが、これは妙智會教団と圓佛教という日韓の新宗教の比較研究の一部である。筆者は2007年に日本の仏教系新宗教である妙智會教団の会員を対象にアンケート調査を実施し、情報化時代における会員の対応に世代間の意識差はあるかどうかには焦点をあててまとめた<sup>(5)</sup>。今回のアンケートは、妙智會教団との比較を行なうため、ほぼ同様の質問項目で圓佛教教徒を対象に実施した。すでにアンケート結果の一部は、妙智會教団と圓佛教の先祖祭祀に関する考えや捉え方に世代間の相違がみられるかを比較してまとめているが<sup>(6)</sup>、本稿では、圓佛教信者へのアンケートの全体についてまとめる。

圓佛教に対するアンケートは、妙智會教団同様、教団への依頼という方法（託送法）によっ

て実施した。具体的には韓国在住の圓佛教関係者に依頼し、2008年末から2009年初にかけて韓国内の法会や教団の行事の際に配布・回収する方法で行った。すべて回収されたのちに送付してもらったので、回収までかなりの時間を要したが、約2,000部を配布したアンケートのうち、1,252部の有効回答を得ることができた。

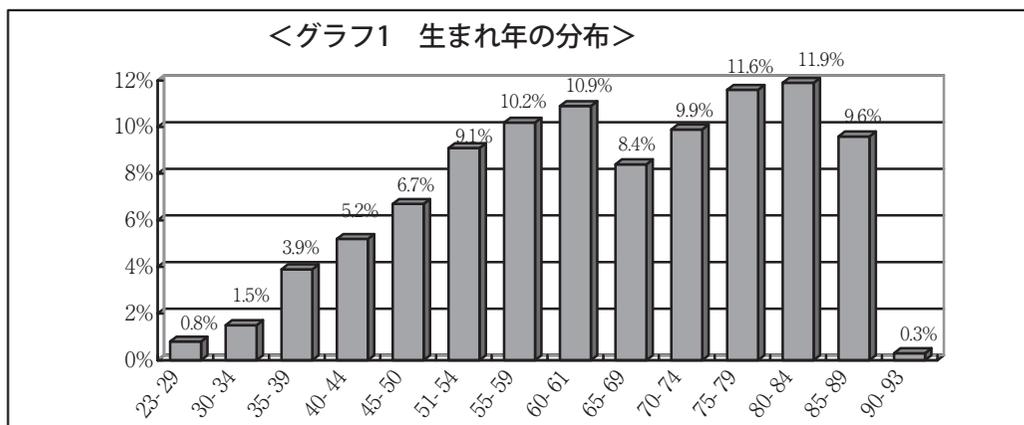
質問項目は全部で21項目で、問1～6は回答者の基本属性である生まれ年、性別、生まれ地域、入会動機とその時期、教徒か役の有無に関する質問である。問7～11は信仰生活の実践度、特に読経の頻度、教団行事への参加度などである。問12～14は教団や教役者に対する信頼度と布教活動に関する項目である。問15～18は、教徒同士の連絡手段や教団からの指示の受け取り手段などの情報伝達手段、またインターネットと教団のホームページに対する認知度について質問している。問19～21は教団行事の来賓に対する考え、教団の社会活動に対する認識、海外布教活動に関する考えなどの質問である。

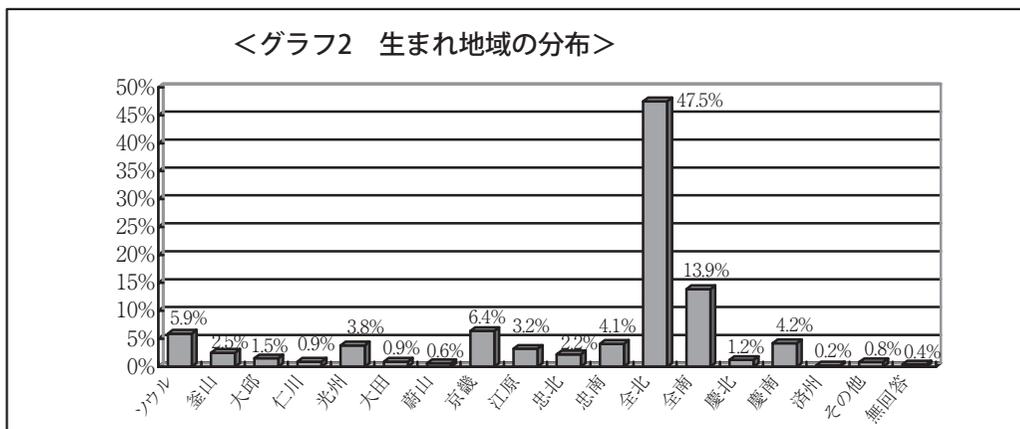
本稿では、アンケート調査の集計結果の概要を示すとともに、とくに現在の情報化時代における信者の意識の世代差について焦点をあてる。また一部の回答結果については、妙智會教団との比較を行う。

## 2. 調査結果の概要

### (1) 基本的属性の概要—男女比率、年齢分布、生まれ地

まずアンケートの回答者の基本的属性の概要を述べる。性別は男性が49.3%、女性が50.5%で（無回答0.2%）、ほぼ男女半々であった。年齢分布はグラフ1に示した。5年刻みとしたが、回答時の年齢では、おおよそ1930～34年生まれが70歳代後半、35～39年生れが70歳代前半と推定されることになる。1920年代生まれ（ほぼ80歳代）と1990年代生まれ（20歳未満）の人はきわめて少なく、20代、30代、50代が比較的多いと考えていい。生まれ地域別にみた結果は、グラフ2のようになった。韓国南西部にあたる全羅北道が47.5%で半数近い割合を占めている。全羅北道の中でも益山市（4割近く）と全州市（2割）の割合が高いという結果だった。この結果はアンケートの配布地域に関わると思われる。益山市以外の他地方教堂や行事の際にも配布はしたが、益山市内の教堂、聖地での行事、訓練、円光大学校での配布・回収が大数を占めるため、偏った結果になったと思われる。なお益山市は圓佛教の発祥地であるから、その意味でも益山市近辺からの回答が多かったのは自然である。





## (2) 信仰生活の実践度と教団に関する考え

次に、圓佛教教徒の信仰生活の実践度関連項目と、教団（行事・教役者）に関する項目について、その結果の概要を示していきたい。

まず一つ目は教徒の信仰生活関連の質問項目であるが、全4問である。圓佛教教徒には信仰・修行生活の中で守るべき四つの義務があるが、それは「朝夕心告」、「法会出席」、「報恩献供」、「入教淵源」で「四種義務」と表現される<sup>(7)</sup>。毎日の実践項目である朝夕心告や毎週の法会出席の時には読経と座禅をする。座禅をくんで心を空にして一圓相誓願文をはじめ、霊呪、清浄呪、聖呪文、般若心経などの読経をする。

このような日常の信仰実践がどの程度行なわれているかを調べるために「読経と座禅はどの程度の頻度で行っていますか」(問7)という質問をした。回答結果は、「毎日」が43.1%、「週1～2」が35.3%、「月2～3」15.1%、「やらない」5.5%、無回答が1%となった。毎日と週1～2を合わせると8割近い結果で、回答者の約8割は少なくとも週1～2日以上はこれを実践していることが分かる。

この読経と座禅の目的は何であるのかを調べるため、「あなたが読経と座禅をする目的は何ですか。一つだけ選んでください」(問8)と質問した。結果をみると、「先祖供養」7.0%、「自分の幸せのため」27.7%、「家族の幸せのため」27.0%、「社会の平穏」16.4%、「世界平和のため」15.3%、「その他」5.1%、無回答1.5%という結果であった。信仰の目的は自分や家族のためが6割近くの結果で、現世利益的な考えが強いとも言える。ただ、社会や世界平和のためを合わせて3割以上という結果は、圓佛教の開教動機の戦争と貧困、無知と病気から開放された楽園世界のこの世に建設するためとする考えが影響していると思われる。

実践度に関する質問は、法会出席関連の「毎週の定例会法会や年例会法会などには参加しますか」(問12)という内容である。回答の結果は「必ず参加する」46.2%、「できるだけ参加する」42.3%、「たまに参加する」10.5%、「参加しない」0.7%、無回答0.3%となった。必ず参加する人が半数近い。

教徒がどれだけ布教活動に関わっているかを調べるために、「圓佛教の教えを人に勧めたことがありますか」(問13)という質問をした。その結果は「よくある」25.6%、「たまにある」54.7%、「あまりない」18.4%、「進めたことない」1.1%、その他0.2%となった。約3割近くが積極的であり、「たまにある」を合わせると、約8割が布教活動の経験をしているこ

とになる。これは四種義務の一つである「入教淵源」の義務と関わっている。「9人の淵源を作る実践運動」が教化3大運動の一つとしてあげられているので、教徒たちには、布教は教えの上からも教団から義務づけられていることになるからである。

二つ目は圓佛教教徒の教団に対する考え、活動・方針などについての意見に関わる質問で、全6問である。まず、「あなたに悩みことがあるときに一番相談しやすいのは誰ですか。一つだけ選んでください」(問12)と質問した。その結果は<表1>に示すとおりである。なお、「その他」とした46人のうち19人が具体的に記しているが、それをみると、13人が「先生」と記入していてもっとも多く、あとは「先輩」、「妻」、「祈祷」、「一圓相」などの回答が少数あった。

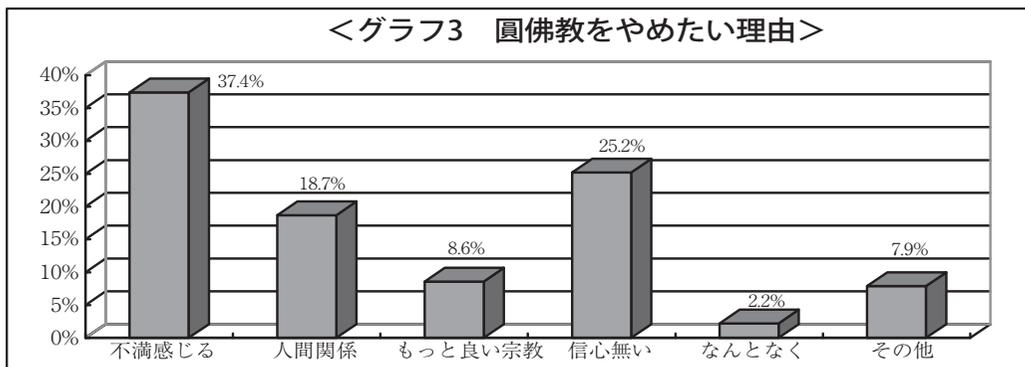
<表1>	教堂の教務	入教淵源	他の教徒	親(家族)	友達	その他	無回答
	41.9%	20%	4.8%	12.4%	16.8%	3.7%	0.4%

回答者の4割以上が教務に相談するという集計結果であったが、圓佛教の日常の集会や活動は教堂を中心に行なわれていることので、教堂を運営して教育を担当している教務に対する信頼度が高い結果が示されていると考えられる。この結果は、妙智會教団のアンケート調査の集計結果<表2>と比べてみると、かなり似た傾向であることが分かる。

<表2>	支部長	導きの親	他の信者	親	友達	その他	無回答
	31.3%	13.3%	5.6%	12.6%	13.6%	16.9%	6.7%

圓佛教の教堂と教務は、それぞれ妙智會の支部と支部長に相当すると考えていいので、教務と支部長の位置づけと役割は、似たところが多い。筆者が参与観察した圓佛教のいくつかの教堂及び妙智會教団の支部でも、両者は教団側からの指示伝達や教理の教育、信者の管理といった役割を果しているのは明らかであった。

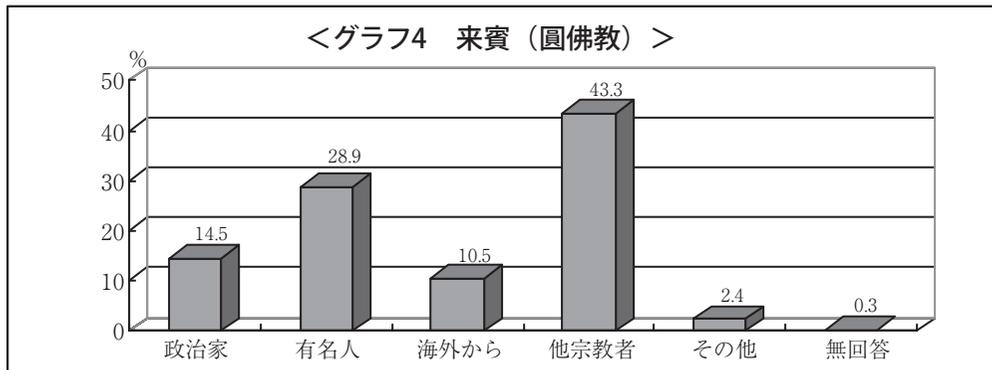
次は、教団に疑問を感じたり、信仰心に揺らぎを感じたことがあったかを知るために、「圓佛教をやめたいと思ったことがありますか」(問14)という質問を設けた。「はい」11.4%、「いいえ」87.9%、無回答0.7%の結果で、やめたいと思ったことのある教徒は少数であった。この質問に「はい」と答えた人には、やめたい理由を聞いた(複数回答)。その結果はグラフ3となったが、「圓佛教に不満を感じたから」が37.4%となり、一番高い割合を示している。



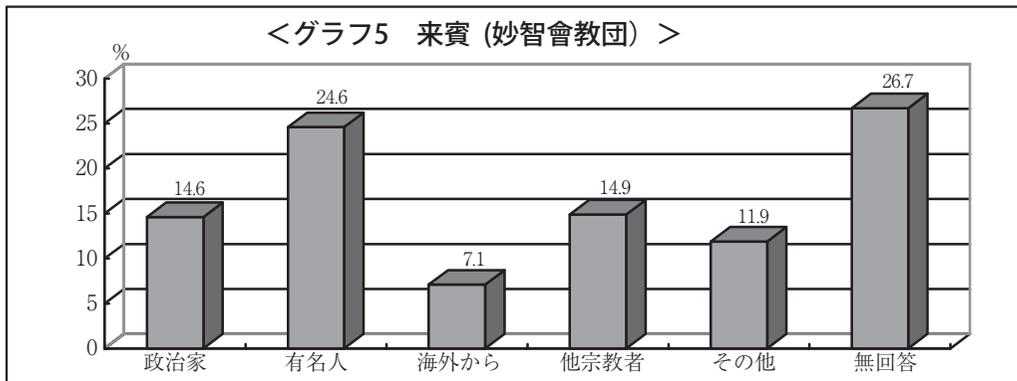
次に、教団の行事への参加度を調べるため、「総部や教区の行事などには参加しますか」（問 11）と質問した。「必ず参加」26.1%、「できるだけ参加」43.8%、「たまに参加」22.6%、「参加しない」7.2%、無回答0.2%という結果であった。「できるだけ参加」を合わせると約7割近くが高い参加度ということになる結果である。教団行事には積極的に参加する傾向であるが、圓佛教の社会奉仕活動についての質問「圓佛教が推進している社会奉仕活動（恩作る運動、奉公会、女性会）などについて一つだけ選んでください」（問 20）に対しては、半数以上は活動をしていないし、2割以上が詳しくは知らないという結果であった（〈表3〉参照）。法会や教団で行われている行事については積極的に参加するが、社会活動に関しては積極性が落ちる傾向が見てとれる。

知っていて、活動にも積極的参加	23.4%
知っているが、あまり活動には参加しない	55.4%
聞いたことはあるが、詳しくは知らない	20.5%
知らないし、聞いたこともない	0.5%
無回答	0.2%
合計	100.0%

教団のさまざまな行事には来賓が招待されるが、教徒はそれについてどのような考えを持っているのかを調べるために「教団行事に来てほしいと思う来賓は次のうち一つだけ選んでください」（問 19）と質問し、その結果は、次のグラフ4のようになった。



来賓としては他宗教者が来てほしいという回答が43.3%と最も多く、次に多いのは有名人で28.9%である。他宗教の人が来て欲しいというのは、他宗教に関心を持っていて、それについて知りたいという考え、あるいは、他宗教の人に自分たちの教えを知ってもらいたいというような考えがあると推測されるが、それについては詳しく聞いていないので分からない。「その他」として具体的に述べられた意見（30のうち9回答）としては、「教団の偉い人」、「社会の先覚者」、「行事に合う来賓」、「社会の弱者」、「脱北者」、「障害者」、「わからない」などがあった。なお、妙智會教団にも同じ質問をしたのだが、その結果はグラフ5に示すとおりである。



妙智會教団の会員は有名人が来賓として来てほしい割合が一番高く、他宗教者と政治家がほぼ同率の結果であった。その他の意見（297のうち229回答）の半数以上（123）が来賓は要らない、来てほしくないという意見で、残りは有名人（歌手、作家、音楽家など）、政治家、宗教者（お坊さん）、教団関係者などの意見が同率の結果を示している。妙智會の会員はその他の意見にも有名人、政治家と答えているので有名人と政治家、他宗教者が来賓として好まれる存在であることが分かる。しかし、無回答26.7%を無関心だと考えるのであれば、その他の半数6%弱の来てほしくないという結果と合わせると会員の3割以上が来賓に関して、とくに積極的な意見は持っていないと考えられる。圓佛教では要らないという意見は無かったので、来賓に関しては、妙智會教団よりは積極的な意見を持っていると言える。

次に教団の国際化に関する質問の結果をみってみる。圓佛教は海外にも多くの教堂があり、海外布教にも励んでいるが、「圓佛教は海外に向けての活動をしているが、海外布教についてどう思いますか。一つだけ選んでください」（問21）と質問した。「海外にも多くの教堂ができてほしい」72.9%、「日本などアジアの近い国に教堂ができてほしい」24.9%、「海外支部は特に要らないと思う」1.8%、無回答0.4%の結果となった。圓佛教教徒の海外布教に関する意見は積極的な態度であるとみなせる。

### 3. 情報化時代への対応

#### (1) 情報ツールの利用状況

韓国放送通信委員会と韓国インターネット振興院が実施した2009年インターネット利用実態調査の結果によると、韓国のインターネット利用率は、2009年5月の時点で満3歳以上の人口のインターネット利用率が77.2%（利用者数3,658万人）で前年度より0.7%増加しているという。この調査は2000年から毎年行われており、毎年利用率は増加している結果である<sup>(8)</sup>。このように韓国内のインターネット利用率は増加傾向にあり、情報化は急速に進行したことがわかる。

圓佛教の教団ホームページには様々なコンテンツや教団関連サイトへの連結が充実しており、教団歴史、教団組織、教理内容、公知事項などの閲覧ができ、教団関連機関・教堂ごとのWebサイトもあって教団機関へのアクセスや教堂別の情報収集や教徒同士の情報伝達、交換が可能になっている<sup>(9)</sup>。これを踏まえて、今回のアンケートからは情報化時代における圓佛教教徒の対応、すなわち、圓佛教教徒のインターネット利用度、教団公式ホームページ

に対する教徒の認識および利用度、希望事項など、また教徒同士の連絡、情報交換の手段などを質問した4つの項目の結果をみている。

まず、圓佛教教徒のインターネット利用方法についてであるが、「あなたのインターネット利用方法は次のうちどれですか（複数回答）」（問17）と質問し、「自分のホームページを持っている」、「自分のブログを持っている」、「携帯電話でインターネットを利用する」、「コンピュータでインターネットを利用する」などの回答の選択肢を用意した。「利用しない」「無回答」がコンピュータを利用していない人たちとみなすと、なんらかの形でインターネットを利用している人は87.7%となり、9割近くがインターネットを利用していることになる。（<表4>参照）。

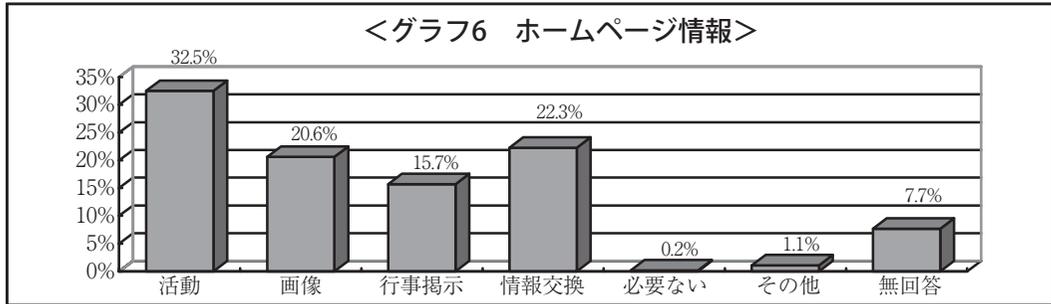
さらに、インターネットを利用している人については、どのようなホームページに関心があるのかについてさらに質問したが、その結果は<表5>に示すとおりである。これをみると、キリスト教系ホームページが63.3%で、もっとも高い関心が示されている。圓佛教は仏教系の教団であるが、他宗教への関心としては、キリスト教系に対する関心が高いという結果になった。

<表4>		<表5>	
自分のHP	8.3%	キリスト教系	63.3%
自分のブログ	13.0%	仏教系	16.1%
携帯電話	2.4%	新宗教	4.0%
コンピュータ	78.7%	占い	3.7%
利用しない	12.1%	関心ない	9.9%
無回答	0.2%	無回答	12.9%
合計	114.8%	合計	109.9%

次は「インターネット上に圓佛教のホームページがあることを知っていますか」（問18）という問いに対して「はい」88.1%、「いいえ」11.7%、無回答0.2%となった。この結果を、妙智會教団の集計結果と比較してみると、妙智會教団は「はい」38.6%、「いいえ」38.7%、無回答22.7%であったので、圓佛教の方がホームページについての関心は高いことが分かる。妙智會教団は高齢者の会員からの回答が多かったことが、こうした結果になった大きな理由の一つと考えるべきである。

問18の質問に「はい」と答えた人に、サブクエスチョンを2つ用意した。①「圓佛教ホームページについてどう思いますか」と②「圓佛教ホームページに求める情報は次のうちどれですか（複数選択可）」である。①の結果は、「十分」が40.9%、「まあまあ」38.7%、「不十分」8.9%、無回答11.5%となった。教団ホームページに対する満足度は「十分」と「まあまあ」を合わせると8割近くとなった。②の教団ホームページに求める情報については、「教団の紹介や活動内容をもっと充実してほしい」、「総部の行事様子を動画で掲載してほしい」、「教団の行事やお知らせなどを詳しく記載してほしい」、「教堂別やウオンマウル別の情報交換が可能な場を増えてほしい」、「ホームページは必要ないと思う」、「その他意見」という回答の選択肢を用意したが、その結果はグラフ6のとおりである。活動教団の行事や活動についてもっと詳しくホームページから閲覧できるようにしてほしいという回答が一番多く、その次が情報交換の場がほしいという回答であった。

圓佛教ホームページにはウォンマウル（圓村）という教堂ごとに作成されたコミュニティサイトがある。このサイトでは、教堂の活動や動向などの紹介がされており、教徒同志の連絡網としての機能をもっている。自分の所属する教堂のウォンマルはむろん、他教堂のウォンマウルにもメンバーとして加入することができる<sup>(10)</sup>。ウォンマウルサイトのトップには「新規マウル」や加入者数が多い人気のウォンマウルが「マウルTOP」として一目でわかるようになっている。教徒たちにとって利用しやすく、かなり興味を引くような作りになっている。今回のアンケートではウォンマルの利用度については質問していないため、どれくらいの頻度で利用されるかまでは分らないが、情報交換の場として有用に感じられていることはうかがえる。

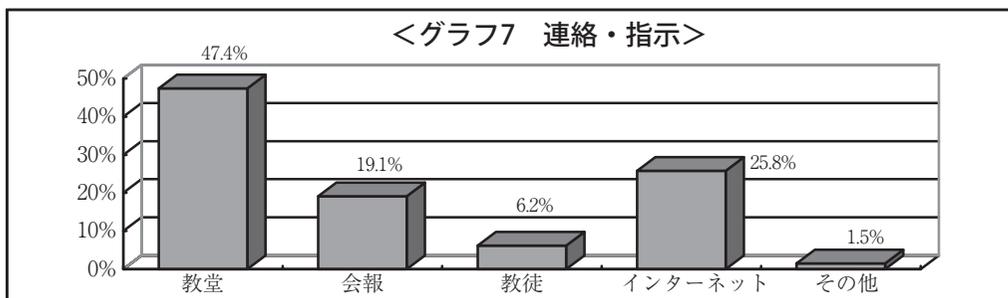


次に、教徒同志の連絡手段についてであるが、これは「教徒同志の連絡手段で最も頻繁に使うのを一つだけ選んでください」（問15）と質問した。その結果（<表6>参照）をみると、携帯電話を利用するという回答が5割以上で、固定電話を含めると7割以上が電話を利用している。インターネット利用率が高く、電話メールでの連絡もかなりの割合を占めると予想したが、直接会うという回答が電子メールでの連絡を上回るという結果になった。

**<表6>**

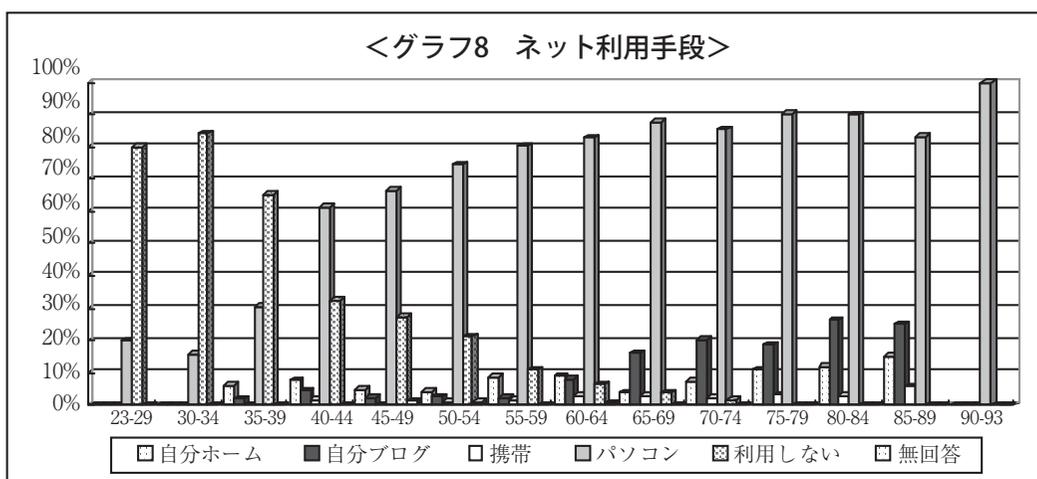
会う	固定電話	携帯電話	電子メール	無回答
19.6	17.2%	54.5%	8.6%	0.1%

教徒同志には電話で連絡する人が多いが、次は「教団総部からの連絡・指示の内容をどのように受け取っていますか」（問16）と聞いたところ、「教堂の法会に参加して聞く」、「円光新聞」などで読む、「他の教徒に連絡して聞く」、「インターネットサイトで見ると」、「その他」の結果がグラフ7となった。毎週の法会に参加して様々な情報を受け取ることが分かる結果であった。法会に参加できない場合はインターネットや会報などで情報を得ているという結果であった。

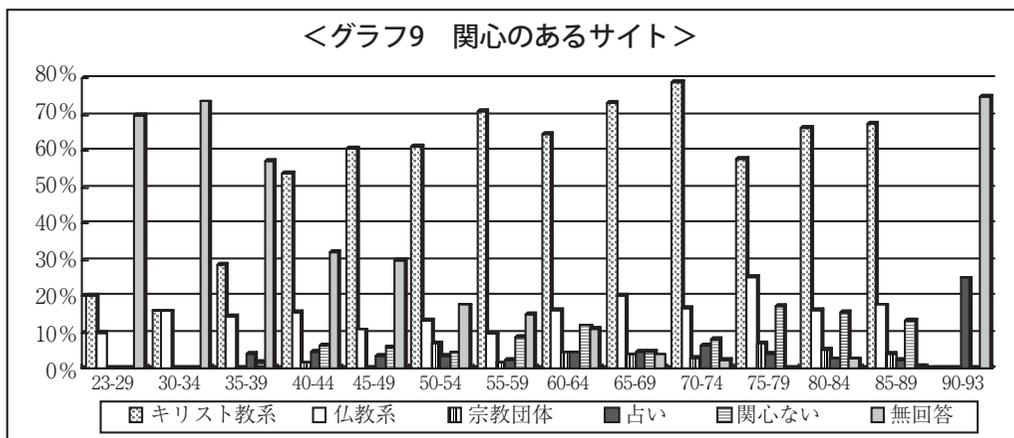


## (2) 世代別による差

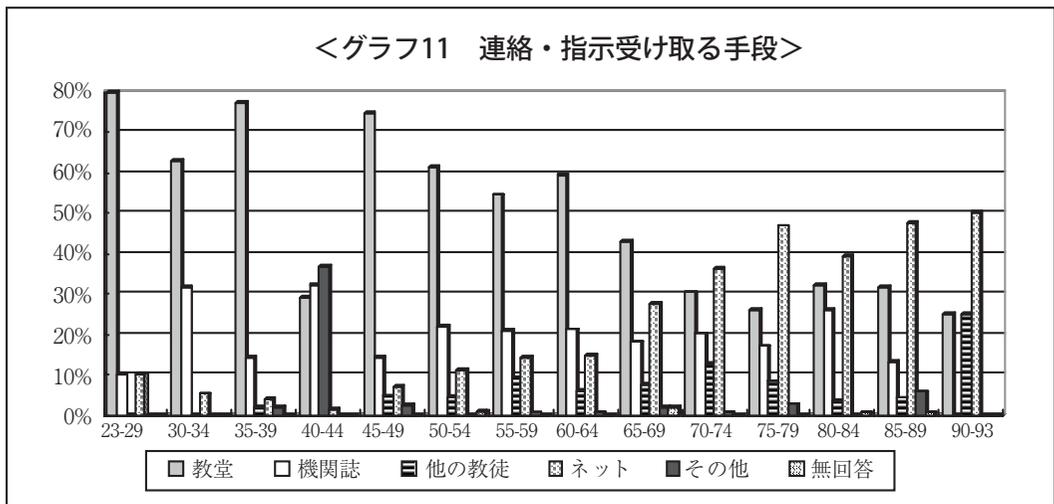
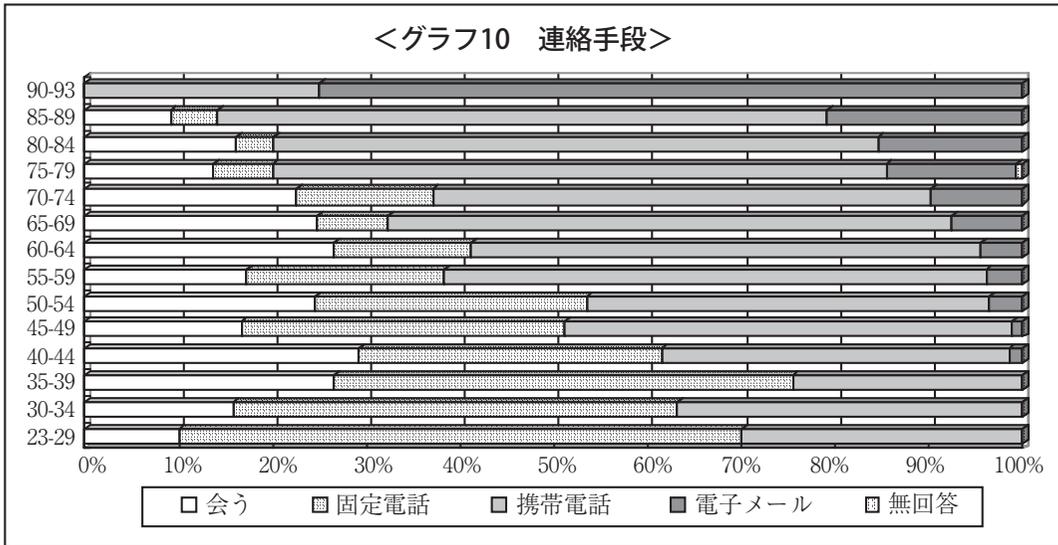
情報化における対応に関する質問の結果についてみてきたが、世代別に差はあるのだろうか。前述した2009年インターネット利用実態調査からは、毎年インターネット利用率が増加していてその年齢別の利用率を見ると、3～9歳 85.4%、10代 99.9%、20代 99.7%、30代 8.8%、40代 84.3%、50代 52.3%、60代以上 20.1%であった。40代以前の若い世代の利用率は極めて高く、60代になると2割程度という結果である。圓佛教教徒のインターネット利用方法に対する質問によって、インターネット利用度がおおよそわかるが、グラフ8のようにその世代別の差は高齢になるほど、利用しないという回答の割合が高くなっている。23～29年生まれの人が30～34年生まれの人よりパソコン利用率が若干高いのは面白い結果である。一般社会の傾向と同様に世代間で明らかな差が見られるが、10代はほとんどがパソコンでインターネットを利用している特徴がみて分かる。



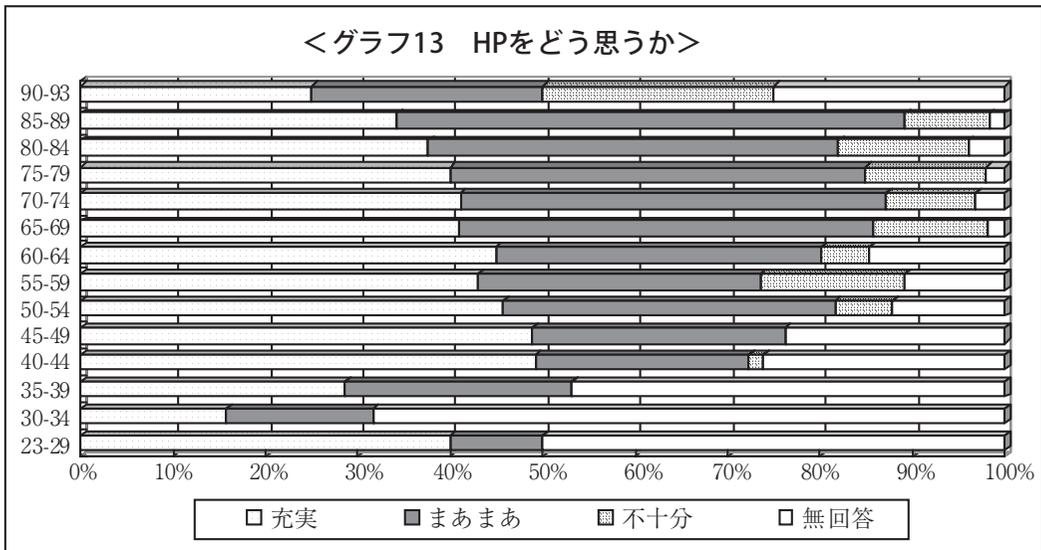
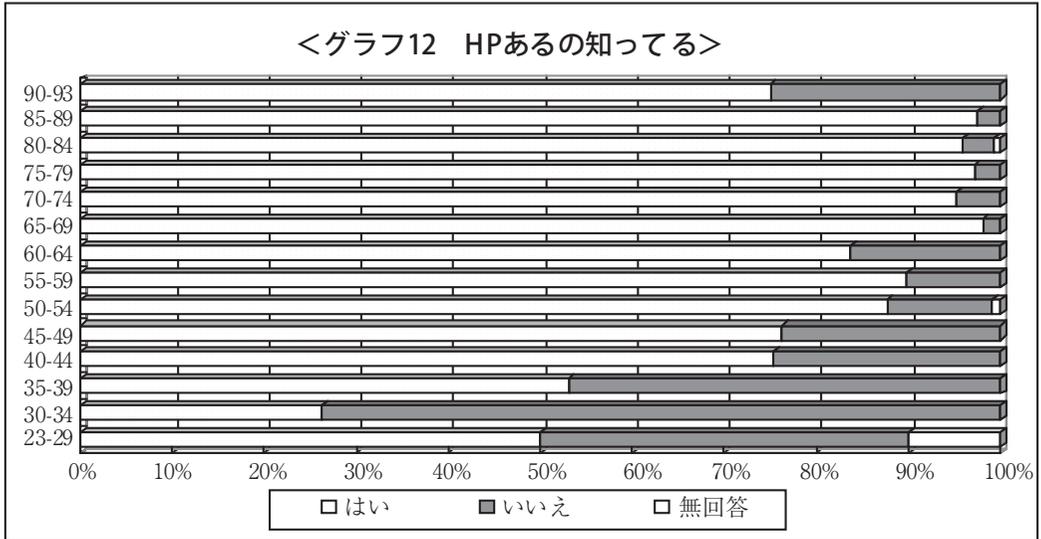
インターネットを利用している人の中で、関心のあるサイトを問う質問における世代差はグラフ9のように大体キリスト教系のサイトに関心を示す割合が高くなっているが、高齢者は無回答の回答が多く、90年～93年生まれの10代は8割近く無回答であるが、2割以上が占いに興味があるという特徴がみられる。



教徒同志の連絡手段における世代差は、以下のグラフ10のように直接会うことに関しては世代の差が大きいとは言えないが、固定電話に利用率は高齢者が多く、携帯電話は若いほど多くなる。10代は携帯が2割以上、それ以外は電子メールの利用が占めている。教団からの連絡や指示を受け取る手段においては、グラフ11のようになった。教堂の法会に参加して受け取る場合が年齢の高くなるほど高くなる傾向を示しているが、40～44年生まれの人は教堂が29.2%、機関誌が32.3%、他の教徒からが36.9%の結果で他の教徒から聞くという割合が高い結果となっている。10代は教堂25%、他の教徒25%、ネットが50%と、インターネットを利用して連絡や情報交換をしていることが目立つ結果となった。



インターネット上に教団ホームページがあることを知っているかの質問に88.1%が「はい」と答えたが、世代間の差はあるのだろうか。グラフ12から分かるように高齢になるほど、知らない割合が高くなっている。ただし、ネット利用手段におけるパソコン利用率(グラフ8)の場合と同様、ホームページの存在を知っているのも、23～29年生まれの人が30～34年生まれの人より高い割合を示す結果となった。ホームページをどう思うかに対する意見の結果はグラフ13に示したが、無回答が高齢者ほど高くなる傾向にある。



#### 4. おわりに

以上の圓佛教教徒の意識調査のアンケート結果に関して、信仰生活と情報化時代における対応という二つの面についてまとめておきたい。まず、信仰生活について、毎日の信仰生活の実践度、教団行事への参加度、布教活動の関係をみておきたい。回答者たちは個人の信仰生活や教団の宗教活動に対してはかなり積極的に関わっていることが分ったが、これに対し、教団の社会活動に対する認識や社会的活動に対しては、いくぶん消極的である。また教堂の教務に対する信頼度は高く、教堂が教徒たちの日常的活動の要となっていることが分かる。圓佛教自体は、社会的活動、社会貢献を前面に掲げる教団であるが、教徒たちは、それをあえる程度は共有しているものの、主として個人の信仰生活のよりどころとして関わっている場合が大半であると言える。

情報時代への対応に関しては、教徒同志の連絡手段としては固定電話や携帯電話の利用度が高く、他方、教団からの連絡・指示は教堂で知ること、受けることが多いという興味深い結果となった。インターネットの利用度自体は高く、教団ホームページに対する認識、利用度も高い割合を示している。つまり、インターネットを通しての情報入手には積極的であるが、実際の信仰生活を営んでいく際には、教堂で実際に顔を合わせる中での指導が依然としてもっとも重要なものとして認識されていることが確認できた。

世代差の比較の結果からは、高齢者ほどインターネットの利用度は低くなり、連絡手段も固定電話になっており、他方、若い世代は携帯電話の利用度と電子メールの利用度が高くなっている。これは日本同様当然の結果であろう。ただ注目したいのは、若い世代では、教団からの連絡・指示もネットで知る割合が高くなっていることである。日本や韓国の新宗教教団においては、実際に会って教えを受けたり、指示を受けたりすることが、一般的にもっとも重要とされているが、その基本的な情報伝達的手段にも少しずつ変化が生じてきているということである。

今回のアンケート結果からは、圓佛教教団の情報化への対応の一端を知ることができた。その対応は妙智會に比べると比較的積極的であり、韓国の社会全体の動向とほぼ呼応するような展開であると言えそうである。特にウォンマウルのコミュニティーに対する加入・活用は、新宗教教団と情報時代の関係を探る上で、非常に興味深いので、これに関してはさらに調査を重ねて、利用の実態を詳しく調べてみたい。

#### <参考文献>

- ・圓佛教中央本部『(日本語版) 圓佛教經典〈正典・大宗經〉』、1975年。
- ・教化訓練部『圓佛教はどのような宗教なのか (원불교는 어떠한 종교인가)』(圓佛教入門書1 (원불교입문서1))、教化訓練部、2002年。
- ・韓国放送通信委員会・韓国インターネット振興院『2009年インターネット利用実態調査』、韓国インターネット振興院、2009年11月。
- ・李和珍「情報化時代における妙智會会員の意識一会員へのアンケート調査の分析を中心に①、②」『国際宗教研究所ニュースレター』第56号、2007年10月、第57号、2008年1月。

・李和珍「新宗教の先祖祭祀の日韓比較—妙智會教団と圓佛教の事例を中心に—」『国学院大学研究開発推進機構紀要』第2号、2010年3月。

## 注

- (1) 開教の動機として明言されているのは、宗教の信仰と道徳の訓練で衰退していく人間の精神を回復させ、現実のすべての苦痛、すなわち戦争と貧富、無知、病気などから開放された楽園世界を建設することである。『圓佛教はいかなる宗教なのか (원불교는 어떠한 종교인가)』(圓佛教入門書1 (원불교입문서 1))、教化訓練部、2002年。
- (2) 3代目が大山(金大擧、1914～1998)宗師、現在は左山(李廣淨、1936～)宗法師が務めている。
- (3) 正典は、圓佛教教理の基本綱領で少太山が著述したもの。大宗経は少太山の一代言行録である。
- (4) 圓佛教ホームページの「今日の圓佛教」。  
[http://www.won.or.kr/won-annae/info\\_main5.htm](http://www.won.or.kr/won-annae/info_main5.htm)
- (5) 「情報化時代における妙智會会員の意識—会員へのアンケート調査の分析を中心に—①、②」『国際宗教研究所ニュースレター』第56号、2007年10月、第57号、2008年1月。
- (6) 「新宗教の先祖祭祀の日韓比較—妙智會教団と圓佛教の事例を中心に—」『国学院大学研究開発推進機構紀要』第2号、2010年3月。
- (7) 朝夕心告(信仰義務)は、朝夕の一定の時間にすべての仏と先祖、親に挨拶し、お願いを告げ、感謝と懺悔の祈りをする信仰行為である。法身仏の前、木魚の音がなくてもどこでも1～3分間の黙想でも毎日やるのが大切とされる。法会出席(修行義務)が、各種の法会への出席に真心を込め、教団の法規と訓練法、教堂来往時の注意事項などをまもり、家庭・社会の法規法道をまもっていくことになる。教徒たちとの縁が篤くなり、法の真理がわかり、知恵のある正しい生き方へと導かれるからである。報恩献供(奉供義務)は、すべての恩に感謝し、献供することで、浪費を避けて節約し、物や金銭を仏前に捧げる。入教淵源(教化義務)は、圓佛教の入教への導き、永生への道を開いて済度することで一番大きい福となる。少太山が9人の弟子をもったことに基づいて、9人以上の入教淵源を作り、出家淵源、成仏淵源までにいたることを目指す。
- (8) 2000年44.7%、2001年56.6%、2002年59.4%、2003年65.5%、2004年70.2%、2005年72.8%、2006年74.1%、2007年75.5%、2008年76.5%である。利用対象は、2000～2001年は満7歳以上人口、2002～2005年は満8歳以上人口、2006年から満3歳以上人口に拡大したもの。2004年調査からインターネット利用に携帯電話無線インターネットを含み、利用定義は「月平均1回以上の利用者」から「最近一ヶ月以内インターネット利用者」に拡大して実施した。『2009年インターネット利用実態調査』韓国放送通信委員会・韓国インターネット振興院、2009年11月、p.21参照。
- (9) 宗教WEB紹介「韓国新宗教のウェブによる情報発信—圓仏教を中心に—」『ラク便り』第39号、2008年8月。
- (10) 圓佛教ホームページのトップにはウェブ会員登録の欄がある。「一般会員」「教徒会員」「専務出身会員」「外国人教徒会員」の4つの種類があり、それによって利用できるサービスが異なってくる。自分で決めたIDとパスワードを入力すると圓佛教ウェブサイトの会員になり、さらにウォンマウルの会員としての登録もできる。しかし、別のウォンマウルを閲覧したい時は、再び登録が必要である。

## 附記

このアンケート調査は、圓光大学校の梁銀容教授のご紹介によって可能となり、実際の調査にあたっては李イウォン教務に配布・回収を含め、多大なご協力をいただいた。お二方と圓佛教の関係者各位にお礼を申し上げたい。